

## 宮脇遺跡 第52地点

遺跡名	宮脇遺跡
よみがな	みやわきいせき
調査地点	第52地点
主な時代	平安時代（約1200年～1100年前）
調査地	富士見市羽沢3丁目28-1、1576-1、1576-10
調査面積	1,451 m <sup>2</sup>
調査期間	平成29年7月25日～9月22日
調査内容	<p><b>【確認された主な遺構】</b> 縄文時代の集石1基、土坑1基 平安時代の竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡2棟 時期不明の柱穴列2条、土坑6基</p> <p><b>【出土した主な遺物】</b> 縄文時代前期・中期の深鉢 平安時代の須恵器坏・甕、土師器坏・甕、鉄鏃、刀子</p> <p><b>【概要】</b> 宮脇遺跡は、北東側の沖積低地を臨んだ武蔵野台地縁辺部に位置しています。これまでの調査で、奈良～平安時代の竪穴住居跡が60軒以上確認されており、富士見市中央部における古代の中心的な集落跡であることが明らかとなっています。今回確認された竪穴住居跡は6軒で、住居跡内からは、調理具や食器として使われていた土器片が多量に出土しています。</p> <p>また、器の外面に文字を墨書した土器が住居跡内から出土しており、当時の集落内には読み書きのできる人々が住んでいたかもしれません。</p>



縄文時代の集石



平安時代の竪穴住居跡調査風景



平安時代竪穴住居跡遺物出土状況



カマドを持つ平安時代の竪穴住居跡



平安時代竪穴住居跡から出土した炭化材



左写真の住居跡の完掘状況



カマド右側に棚状の施設を持つ竪穴住居跡



天井部が残っていたカマド



小形の竪穴住居跡



掘立柱建物跡完掘状況